

学校だより



川西市立多田小学校

2月号 令和2年2月3日

学校HP : <http://www.kawanishi-hyg.ed.jp/tadapo/>

一年の中で最も短い2月が始まりました。寒さが一番厳しくなる時期でもあります。が体調は大丈夫でしょうか。

この時期に植物に与える肥料のことを「寒肥(かんごえ、かんぴ)」と言います。植物は、この寒い時期に栄養となる肥料を与えると、春からどんどん成長し、立派に育っていきます。人も同じことで、この時期にどのように鍛えるかで、春からの成長につながります。子どもたちも、寒いからと閉じこもってばかりではなく、この厳しい寒さだからこそしっかりと体を鍛え、そして、心を強くしてこれからやって来る春につなげていってほしいと願っています。

◎人皆に美しき種子あり 明日何が咲くか

この言葉は、詩人の安積得也さんの「明日」という詩の一節です。「人皆に美しき種子あり」みなさんは、自分のよさや可能性について考えたことがあるでしょうか。人前で上手に話せない、スポーツが苦手など、うまくできないことに悩むこともあるでしょう。そんな時、何でもできる人をうらやましく思うことがあるかもしれません。しかし、自分をよく見つめてみましょう。自分にしかないよさがあります。自分で自分のよさを認めてあげることが大切です。また、自分の奥底に潜んでいるよさや可能性を信じてみましょう。同時に、他の人のよさに目を向けるようになると、自分自身の心も豊かになるし、よい人間関係が築けます。

安積さんは、「明日何が咲くか」とも言っています。一人ひとりのよさや可能性の花は、一つとして同じ形や色のものはなく、花開く時期も異なります。しかし必ず咲くのです。自分を信じて、開花する時期を楽しみにしててください。みなさんが、どのような素晴らしい花を咲かせるか、楽しみにしています。

◎春を迎える前の節分

日常の生活を追われるように過ごしていると、季節の移ろいに鈍感になってしまいます。でも、ハッと感じさせてくれるのは、その季節の表情と伝統的な風習です。

今日、2月3日は節分です。「節分」は「季節を分ける」と書き、季節が移り変わる時という意味があります。日本には春・夏・秋・冬というように四季があります。この4つの季節の始まりが旧暦(太陰暦)の立春・立夏・立秋・立冬で、その前日を「節分」といいます。今の暦(太陽暦)では、今年は立春が2月4日、立夏が5月5日、立秋が8月7日、立冬が11月7日になります。一年に「節分」は4回もあるのです。しかし、春を迎えるということは新年を迎えるのと同じくらい大切な節目だったため、立春の前日の「節分」だけが日本の生活の節目として残っているのです。

節分の夜に『豆まき』をする風習があります。昔季節の変わり目に邪気といって、

人に害を与えようとする悪い鬼や化け物、悪い心などが入りやすいと考えられていました。そこで、新しい年を迎える前に邪気を払って福を呼び込むために、宮中行事として「追儺(ついな)」という行事が行われるようになり、その行事の1つ「豆打ち」が『豆まき』となり、今の時代に続いているのです。

また、イワシの頭を焼いて柵の枝に刺し、それを家の戸口に置く、「焼嗅(やきかがし)」という風習もあります。鬼の嫌いな「臭いイワシの頭」と「痛い柵のトゲ」を玄関に置き、鬼の侵入を防いでいました。この風習は最近ではほとんど見なくなりましたが、イワシ料理を食べるお家はあるのではないのでしょうか。

豆まきをするときに「鬼は外、福は内」と声をかけますが、地方によっては「鬼は外」ではなく「鬼も内」というところもあるそうです。福も鬼もみな内に来て、仲良くして一緒に頑張ろうという意味があるそうです。とても素敵な話ですね。

「節分」には、もし、みなさんが心の中に悪い心だなどと思うものを持っていたら、それを追い払い、よい心を持つために、大きなかけ声で豆まきをして、新たな気持ちで立春を迎え、今の学年での締めくくりをしましょう。



たくさんの参加ありがとうございました！

～ふれあい集会 盛況～

1月24日(金)、ふれあい集会を行いました。保護者のみなさん、地域の方、多田幼稚園の子どもたちと、たくさんの方々に来ていただき、楽しく有意義なふれあいの時間をもつことができました。



各学級の子どもたちが準備してきたゲームや出し物で楽しんでもらいました。盛況の中、子どもたちは、生き生きと働いていました

※日々の学校生活についても、ホームページで紹介しています。ご覧ください。

